



Hikone Castle Town

彦根城を世界遺産に

重要伝統的建造物群保存地区

金堂の集落

圧倒的な農村

江戸時代から明治時代、近江の農村がいかに発達したか。この発達を支えた近江商人の実力を示す集落の一つが金堂である。

金堂は大和郡山藩の領地で、湧水の豊かな田園地帯のなかに、陣屋を中心とする農村として発達した。見どころは、弘誓寺、勝徳寺、浄栄寺などの大規模な檀家寺院と、外村家などの武家屋敷にも比肩する豪壮な近江商人の本宅。

城下町にも比肩する町なみと、清らかな水路の流れ、これが近江の農村だ。

五箇荘駅下車



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

重要文化的景観

八幡堀

水路を活かした商人の活躍

近江八幡は、豊臣秀次が安土から移した城と町が起源である。

江戸時代には、幕府領を中心に、朽木領、八幡神社領、尾張藩領などの分割や変遷があった。その激動の中にあっても、秀次が営んだ城下町の伝統を引き継ぎ、商業が発達し、西川家などの豪商を輩出した。

その背景には、八幡堀を利用した水運があり、大津、堅田とともに三親浦と呼ばれた。

近江八幡駅下車



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

布施の溜

豊かな実りを求めて

滋賀県を代表するため池である。その原型は古墳時代にあるともいわれ、平安時代の「りょうじん ひ しょう梁塵秘抄」という歌謡集にも、布施溜を詠んだ詩がある。

そして、江戸時代。このため池は布施村のみならず、10ヶ村の水源として利用され、1720年代には、彦根藩の直営工事として土手・石垣の修理が行われた。

近江の豊かな実りを生み出した溜め池。光り輝く水面が誇らしい。



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

滋賀県指定無形民俗文化財

日野祭

祭礼に見る近江商人

日野は、湖東の内陸交通の拠点の町である。

甲賀を経て、湖東各地と伊勢・伊賀を結ぶ日野は、商業・商人の町として発達した。

その豊かさは、山中兵右衛門日本宅などの商人屋敷とともに、毎年5月2日・3日に執り行われる馬見岡綿向神社の祭礼・日野祭りにみることができる。

県内最多、16基の装飾豊かな曳山の巡行と、神子や神輿などの神幸。

格式と豪華さが同居する祭礼である。



Hikone Castle Town

彦根城を世界遺産に

滋賀県指定史跡

水口城

将軍にルーツを持つ城郭

江戸時代の初期、江戸に幕府を構える徳川将軍も、必要な時は京都に行くことがあった。これに備え、将軍専用の宿泊所、休憩所が設けられた。滋賀県内では、中山道・朝鮮人街道に沿う、柏原御殿、伊庭御殿、永原御殿が、東海道には水口御殿が作られた。このうち、東海道の水口御殿が使用されたのは、寛永11年（1634）の家光上洛の一度だけ。その後、天和2年（1682）には加藤2万石の統治拠点・水口城と変化した。

水口城南駅下車